

第37回（令和6年度）

「国際交流・国際理解のための小中学生による作文コンクール」

## 入 選 作 品 集



令和6年11月

公益財団法人小佐野記念財団

優

秀

賞



## 「世界平和実現のために私ができること」

山梨英和中学校 2年 織田 唯花

私の目標は「広い視野を持ち、確かな学力を身につけ、世の中の役に立つ女性になること」です。そのためには世界に目を向けて、世界の現状や課題を知ることが大切だと考えました。そして私は今年の春休みにベトナムへSDGs研修に行くことに決めました。

3泊5日のSDGs研修は、短くてもとても濃厚な研修になりました。人生初のベトナムは日本との違いに驚くことばかりでした。

まず驚いたことは、ベトナムに到着し、飛行機から降りた途端一気に感じた蒸し暑さです。出発する前は3月の寒さでコートを着ていましたが、3月のベトナムは36度もありました。

空港からホテルに向かう間もいつもと違う空気や匂い、賑やかさに戸惑いました。その中でも特に驚いたのがバイクです。横断歩道を渡ることが怖いほどバイクがたくさん走っていたのです。日本は道路の交通手段として車を使う人が多いですが、ベトナムではバイクを使う人がほとんどだそうです。身近な日常生活にも違いがたくさん現れていました。

他にも驚くことがたくさんありました。ついさっきまで近代的なビルなどが並んでいたのに地方に出るとホームレスのような人がいたり、その人たちがほったて小屋で魚やお肉を売ろうとしていたりする光景も目にし、同じ都市でも貧富の差があることがわかりました。

この研修では日系企業訪問、孤児院訪問、JICA訪問、市内見学、異文化理解、平和学習、グエン・ドクさんの講話など海外だからこそできる貴重な経験をすることができました。その中でも私が一番心に残ったのはグエン・ドクさんの講話でした。

グエン・ドクさんは、日本でベトちゃんドクちゃんという愛称で呼ばれている、下半身が繋がった状態で生まれてきたベトナム人の結合双生児の弟さんです。ベトナム戦争の際に米軍が大量に撒いた枯葉剤の影響で、下半身が繋がった結合双生児となったと考えられているそうです。

ドクさんは講演会で私たちが平和実現のためにできることを教えてくれました。それは「戦争は意味がない」。このことを伝えていくことです。

私はもともとSDGsに興味があり、SDGsについての本を読みながら地球温暖化を防ぐためにできること、海の豊かさを守るためにできること、貧困を改善するためにできることなど、自分にできることをよく考えています。しかし、戦争や紛争のページを読んだ時は、それらを経験したことがない私には戦争・紛争をなくすためにできることはないのだと最初から思い込んでいて、改善方法を詳しく考えたことがありませんでした。

そこでドクさんから「戦争は意味が無い」ということを伝えていくことができると聞き、実際に戦争を経験したことの無い私にも、戦争を経験した人が体験したことや思いを受け継ぐことができることに気がつきました。

さらに私は、SDGs 研修でベトナムに行き、戦争の恐ろしさを生で感じてきました。だからこそ自分にできることとして「戦争は意味がない」ということをまずは身近な人からでも伝えて、多くの方が今の世界の現状を知り、平和実現へのきっかけができたらいいなと思います。

平和とは「戦争や紛争がない状態、国家間、民族間、人々間の理解、尊重、平等、合法性の関係、全人類の憲法のこと」を言うそうです。簡単に平和を実現するのは難しいかもしれません。しかし、研修で学んだことを活かして、自分も世界平和に一步近づけていくための力になりたいと思います。

**佳 作**

## 中学生の部 佳作

### 「国際交流について思うこと」

甲府市立南中学校 2年 小澤 佳弘

皆さんは「国際交流」という言葉を聞いてどんな印象をもつだろうか。僕は「外国の人と関わることにはあまり親しみがなく、難しそう」という考えをもっていた。そこで、国際交流には具体的にどんなものがあるのか調べてみた。すると、留学や海外旅行などの生活での交流、オリンピックなどのスポーツでの交流など身近な場所で国際交流が行われていることが分かった。さらに、現代では情報技術の発達により、インターネットで気軽に世界中の人と繋がることができる。そんな中、他国との文化や価値観の違いをお互いに理解し、尊重し合うことが大切とされている。

では、なぜこのような「国際理解」が重要とされているのだろうか。

まず、国際理解が必要である理由の一つは、国境を越えた平和に繋がるからだ。歴史を振り返ると、多くの戦争や紛争は、異なる国の文化が違いに理解し合えず、誤解や偏見から生じたものが多い。例えば、第二次世界大戦は他民族に対する偏見や差別が大きな原因の一つとなっていた。もし異なる文化や民族に対する理解が深まっていれば、こうした大規模な戦争は避けられたかもしれない。現在日本では戦争や紛争は起こっていないが、小さなすれ違いや誤解が原因になる場合があるので、一人一人が国際理解の意識をもつことが大切である。

また、国際理解はお互いの国を支えることにも繋がる。世界で起きている環境問題や貧困、感染症などの社会問題は一国だけで解決することはできない。そこで、僕たちがこの問題に向き合い、募金やボランティア活動への参加など、普段の生活から世界を支えることで、持続可能な社会を目指すことができる。

最後に、国籍の違う人と関わることは、自分を成長させることに繋がる。異なる文化や価値観に触れることで、自分自身の考え方や価値観を見直し、より広い視野をもつことができる。例えば、外国の人と交流する中で、自分が当たり前だと思っていたことが、相手の国では全く異なることがある。こうした経験を通じて、柔軟な考え方や多様な視点をもつことができるようになる。また、言語の違いを超えて交流することで、コミュニケーション能力が向上し、多様に人と関わるようになる。

このように国際理解はお互いにメリットを得られるものだ。そのため、身近にある国際交流に目を向け、色々な国の文化や価値観を知り、国籍の壁を越えて協力し合える社会を目指していきたい。

## 「水で命を失わないためにできること」

甲府市立富竹中学校 1年 石津 愛菜

私は小学生の時に、SDGsについて調べたことがあります。「SDGs」という言葉は、近年よく耳にしますが内容をよく知らなかったので調べてみたら世界中で起きている問題がたくさんあるということに衝撃を受けました。SDGsとはサステナブル開発目標の略で訳すと「持続可能な開発目標」という意味であり、小さなことでもずっと続けていくことが大切で「全ての人々が平和で公正に暮らせるように」「世界中が協力し合おう」などの十七の目標があり、一人一人が努力して目標を達成することにより、世界中の全ての人々がいつまでも平和に健康で暮らすことができるという内容でした。

十七の目標の中で私が気になった目標は「安全な水とトイレを届けるには？」です。私は、十三年間何の不自由もなく、毎日温かいご飯を食べ、清潔な布団で寝たり毎日お風呂に入ったり、学校や習い事などやりたいことをなんでもさせてもらって生きてきました。日本では、じゃ口をひねればきれいで安全な水が出ます。それが私にとっては当たり前のことでしたが世界の人々の十人に一人ははるかに改善されていない水源水を利用したり、池や川の水を利用したりしている人も少なくないということを知りました。また十人に四人以上は、衛生的なトイレを利用できず、四億九千万人の人は家や近所にトイレがなく、道ばたや草むらなどで用を足しているということがわかりました。二〇二〇年時点で、年間およそ五十二万五千人も五歳未満の子供が下痢で命を落としていて原因は汚れた水と不衛生な環境にあるとされていることがわかりました。世界には、国自体が貧しくて水道設備を整えることができず国民に安全な水を届けることができない国もたくさんあるそうです。改善策として私に何かできることがないかと考えましたが、今の自分にできることは、海や川を汚さないように汚れた水を流さないようにしたり節水することだと思いました。台所やトイレ、お風呂などの日常生活から出る排水を生活排水といい、一人が一日に使う水の量は二百五十リットルにもなるそうです。バスタブ約一杯分です。水質のためにすぐ出来ることは油分を水に流さないようにすることだとわかりました。一人の行動だと環境への影響は少ないかもしれませんが、十人・・・二十人・・・と同じ目標に向かって行動する人が増えていけば不衛生な水やトイレの問題で命を落とす子供も減ると思います。

最後に環境問題が課題にあがっている中、未だに用水路や道ばたにゴミを捨てる人がいます。日本はきれいだと言う外国の方もいますが、近所でその光景を見てしまうと、残念な気持ちになります。誰かが片付けなければならないし、水質汚染の原因の一つにもなる行動だと思っています。この目標と現状を一人でも多くの人に知ってもらい行動にしてもらえたら苦しんでいる人も減るし、みんなが普通の生活を送れるようになると思います。

**第37回（令和6年度）**  
**「国際交流・国際理解のための小中学生による作文コンクール」**  
**優 秀 作 品 集**

令和6年11月 発行

発行者：公益財団法人小佐野記念財団  
山梨県甲府市丸の内一丁目6-1  
（山梨県知事政策局国際戦略グループ内）  
Tel.055(223)1435